

ねらい 訂正仕訳についてマスターする。

【訂正仕訳】

日常の取引で仕訳を行いますが、間違って仕訳をしてしまう場合があります。間違って仕訳をした場合は、それを訂正する必要があります。その際に行われる仕訳を訂正仕訳といいます。訂正仕訳で重要なことは、間違っていた仕訳はそのままにしとして、訂正した仕訳を新たにすることにより、結果的に正しくなるようにすることです。仕訳をする上で、間違いやすい仕訳とは、『貸借を逆の仕訳を行ってしまった場合』『勘定科目を間違えた場合』の2つが考えられます。

貸借を逆の仕訳を行ってしまった場合、つまり仕訳の際に借方と貸方を間違って逆に記入してしまったこととなります。例えば現金100円が増加したのに貸方へ「借 ××× 貸 現金 100」と書いてしまったということですから、現金が100円減っていることとなります。これを100円増加にするには、借方へ現金を200円増加しなければなりません。

具体的には、以下の手順で訂正の仕訳を行います。（右図参照）

- 誤った仕訳の取消仕訳を行う。
- 正しい仕訳を行う。
- 上記 ・ の合計を訂正仕訳として用いる。

例1 現金売上1,000円の取引を下記のように貸借逆に仕訳していることがわかった。  
 (借方) 売上 1,000 (貸方) 現金 1,000  
 これを訂正仕訳すると  
 (借方) 現金 2,000 (貸方) 売上 2,000

勘定科目を間違えた場合は、次のような手順で訂正仕訳を行います。

- 誤っている勘定科目を取り消すために貸借を逆に記入する。
- 次に正しい勘定科目を書く
  - ・ をあわせて仕訳を行う。

例2 給料500,000円の小切手支払の仕訳を下記のように貸方を現金として仕訳してしまった。  
 (借方) 給料 500,000 (貸方) 現金 500,000  
 これを訂正仕訳すると上記より  
 誤っている勘定科目を取り消すために貸借を逆に記入する。  
 ここでは現金が間違っているので  
 (借方) 現金 500,000 (貸方) ×× ×× とまず現金の貸借を逆にする。  
 次に正しい勘定科目を書くので  
 (借方) 現金 500,000 (貸方) 当座預金 500,000 となります。

訂正仕訳

原則：仕訳の訂正は、間違っただけの仕訳はそのままにして、訂正の仕訳を新たに行う

貸借を逆にした場合

	借方	貸方
誤った仕訳→	売上 1,000	現金 1,000
本来の仕訳→	現金 1,000	売上 1,000
<b>手順①</b> <small>誤った仕訳の取消仕訳を行う</small>	現金 1,000	売上 1,000
<b>手順②</b> <small>正しい仕訳を行う</small>	現金 1,000	売上 1,000
<b>手順③</b> <small>手順①と②の合計</small>	現金 2,000	売上 2,000

勘定科目を間違えた場合

	借方	貸方
誤った仕訳→	売掛金 1,000	売上 1,000
本来の仕訳→	現金 1,000	売上 1,000
<b>手順①</b> <small>誤った勘定科目の貸借を逆にする</small>	空欄	売掛金(誤った勘定科目)
<b>手順②</b> <small>正しい勘定科目を記入する</small>	現金(正しい勘定科目)	空欄
<b>手順③</b> <small>手順①と②の合計</small>	現金 1,000 正しい勘定科目	売掛金 1,000 誤った勘定科目